

【復興支援道路】

一般国道340号立丸峠工区(仮称)小峠トンネルが貫通!

～ つなごう!復興のために 進もう!復興のその先へ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県が「復興支援道路」として遠野市恩徳～宮古市小国間で整備を進めている一般国道340号立丸峠工区において、計画している2箇所トンネルのうち、宮古側の(仮称)小峠トンネル(L=920m)が貫通し、平成27年7月27日に貫通式が開催されました。県が復興支援道路として整備を進めている道路のうち、東日本大震災津波後に着手したトンネルでは初めてのトンネル貫通です。

貫通式には、県、宮古市、遠野市、地権者、工事関係者等約140名が出席しました。なお、この小峠トンネルが次世代への資産として引き継がれる重要な社会資本であることから、貫通式には、地域の未来を支える宮古市立川井小学校の児童の皆さんにも参加していただきました。

貫通発破では、佐々木沿岸広域振興局長、堀江県南広域振興局長、県議会議員等と一緒に川井小学校児童にも発破のボタンを押していただき、平成26年8月の工事着手から約1年の歳月をかけて小峠トンネルが無事貫通しました。その後、関係者による貫通点通り初めを行い、参加者一同の盛大な万歳三唱で小峠トンネルの貫通を祝いました。

また、貫通式では、川井小学校児童から小峠トンネル貫通を迎えての想いの発表があり、最後に児童全員で合唱が行われ、貫通式の会場は感動につつまれました。



川井小学校児童と一緒に貫通発破



川井小学校児童からの発表



樽神輿入場!



(仮称)小峠トンネル貫通!!!



関係者による鏡割り

県では、今年を「本格復興邁進年」と位置付け、復興を強力に推し進めており、立丸峠工区のうち、宮古側の小峠工区 1.7km について、平成 28 年度の供用開始を目指して工事を進めています。また、今後、遠野側の（仮称）大峠トンネルについても工事着手するなど、立丸峠工区の早期全線供用に向けて、**全力で事業を推進**していきます。

貫通した（仮称）小峠トンネルと
川井小学校児童一同



【立丸峠工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、**災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築**することを目的として、**三陸復興道路整備事業を実施**しており、一般国道 340 号立丸峠工区は、三陸復興道路整備事業の「復興支援道路」に位置付け、**重点的に整備**を進めています。

